



Title	IDUN X 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN. 1992, 10
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95821
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN X 刊行にあたって

本誌も、1973年に創刊号を出してのち順調に進み、10号を迎えることとなりました。本誌は原則として本学科のスタッフを執筆者として隔年刊行となっておりますが、前号が刊行されたのは90年11月ですから今号はかなり早いことになります。といいますのも、表紙にも記しましたように、本 X 号は岡田令子教授の大阪外国語大学御退官を記念し、あとに残る私どものささやかな感謝の意を表す特別号となったためです。したがって今回は、執筆者も岡田教授の新旧の同僚に加えて、第 1 期生からつい数年前の教え子まで、テーマも文学から言語、そして歴史までと質量とも通常よりもはるかに増しております。

顧みますと、岡田先生は私どもの学科がデンマーク語学科として新たに設置された1966年の翌年、それまで活躍しておられたデンマークから赴任されました。そして、学科創設の最初期から今日までその大部分を学科主任として、私ども後進のスタッフを啓発して下さる一方で、学生たちには現代デンマーク事情と、H. C. Andersen, Karen Blixen を中心とするデンマーク文学を意欲的に講じて、わが国にデンマーク文化研究の種を播いてこられました。具体的には、なによりも先生の豊かな人間性、芸術的感性の溢れる講義と著述を通じて学生たちに文学を学ぶ楽しみと喜びを教えられました。また持病の喘息に悩んでおられる最近こそ見られなくなりましたが、人生の大先輩として絶えず若い学生たちを厳しく指導され、彼らにまず独立した個人として生きる必要を教え説いてこられました。その感化のおかげで個性を確立するようになった若者の数も少なくありません。

こうした余人をもって替えがたい岡田令子先生をいよいよ本年3月末に送り出すことは、私ども一同にとって大きな損失であり

ますが、それも規則であってみれば致し方ありません。今後はひきつづき学外から、至らぬ私どもをご指導下さるようお願い致します。それと同時に、さらなる健康のご回復とご活躍をお祈り申し上げます。

来る4月に現代デンマーク文学担当の新任教官を迎えることを別にすれば、本学科研究室には人員の移動はありません。また目下在籍中の若い学生諸君も、前号に記したと同様の活動を行っております。彼らは日常の勉学に励むと同時に、秋の大学祭では恒例のデンマーク語とスウェーデン語それぞれによる劇を上演し、また4年生の一部は両国への留学を実現しております。

1992年2月1日

大 阪 外 国 語 大 学 外 国 語 学 部
デンマーク・スウェーデン語学科研究室